令和４年度　浜松学院大学付属愛野こども園学校評価結果について

（自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果）

総合評価　B

１　評価項目の達成及び取組状況

評価対象	結果	理　　由
（1）　幼保連携型認定こども園の教育・保育に関して	A	**教育・保育目標** **「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」** **重点目標** **「からだづくり　こころづくり　なかまづくり」** ・園児との信頼関係を十分に築き、園児が自ら安心して身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤したり、考えたりするようになる、よりよい教育及び保育の実践に努めることができた。 ・教育・保育をとおして育みたい資質・能力を共通にし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」等を指導計画に位置付け、実践する中で学期ごとに考察・反省を繰り返し、指導の充実を図ることが出来た。 ・今年度も、特に感染症への予防対策が重要事項となり、園生活の中で可能な限り三密を避け、手洗いうがいの励行、マスクの着用を繰り返し指導し、健康な体づくりへの意識を高めることができた。 ・行事の開催（学年別運動会、クラス別参観会等）や地域の人との交流等、内容の工夫や新たな様式を基とした方法等で、目標が達成するよう努めることができた。 ・幼児理解に基づいた指導計画の作成、保育実践、反省を基にした改善をＰＤＣＡサイクルで捉えて行うことで、子どもたちの心の豊かさ、たくましさの育ちを促すことができた。職員の努力の成果であり、保育者自身の質の向上につながった。 ・南の丘学園研修会に参加し、年長児から小学校への架け橋について、改めて学ぶことができ、幼小一貫教育のへの職員の関心が高まった。

（2） 保育の実践力に関して（研修を含む）	B	・主体的に生活できるよう、個人差を踏まえながら一人ひとりに適した援助に心掛けることができ、自己肯定感をはぐくむ実践につながった。また、特別支援を要する幼児への支援の難しさはあるが、マンツーマンで向き合う中で、支援の方法がつかめ、保護者と連携をとりながら対応することができた。 ・幼児が自らの興味や関心に基づいて、自発的、主体的にかかわろうとする環境を計画的に用意したり、日頃から慣れ親しみ安心できる環境に心掛けたりして、生活全体を充実させることができた。 ・外部研修は、リモート研修を含め専門的に学ぶ機会となり、職員の新たな学びにつながり、保育実践に活かす努力をするようになった。 ・園内研修では、保育部・教育部それぞれクラス単位で提案保育を実施し、職員間での意見交換から多面的な捉え方を学び、職員の質の向上を図ってきている。
（3） 教諭としての資質について（能力・良識・適性）	A	・幼児の主体性を大切にした保育のあり方を考え合い、幼児の思いに寄り添った保育実践に努めることができ、職員間で園の教育方針を共通にして進めることができた。 ・研修、会議等では、進んで意見交換したり、傾聴したりして、新たな学びを保育に活かす努力をすることができた。 ・常に衛生面・清潔感を意識した身だしなみに心掛け、子どもたちの手本になれるような保育姿勢を築けた。また、言葉遣いに自ら気を付けることができ、子どもたちにとって正しい言葉の習得になるようにした。 ・提出物の期限を守って保育準備やお便りの作成、指導案等の提出ができた。 ・保育室の環境では、壁面の作成がやや季節のタイミングに合わないことが生じたが、小動物の飼育や秋の自然物活動等、時期を捉えた保育環境への意識が高まっている。 ・室内の整理整頓は、中には苦手な教諭もいるが、避難経路の確保や棚の上に重い物を置かない工夫などできている。
（4） 教諭同士のティーム力について	A	・教育部・保育部共に他学年の職員との連携に努め、行事の遂行、日々の保育準備、環境等に協力体制で取り組むことができた。 ・役割や担当について、先輩の教諭から方法について聞いたり、自分が経験することで力をつけたりして、学びに活かすことができている。 ・伝達ミスを招かないよう、丁寧に伝え合い、活動等に支障が出ないように努めると同時に、守秘義務を互いに守っている。

（5）　保護者との連携に関して	B	・園児や保護者の個人情報を厳守したうえで、面談の実施や連絡帳への記載をすることができている。 ・保護者面談では、傾聴を基本として思いに寄り添ったり、園での様子を伝えたりして、連携がより密にとれるようになった。 ・保護者からの相談内容や、担任から保護者への報告事項について、事前に主幹教諭・園長と内容を共有し、必要に応じて対応の方法を事前に考え、丁寧に対応できるようにした。 ・保護者の考え方が多様化しているが、クレーム的な意見はなく、園への温かな理解・協力を得ることができている。 ・全体的には連携が取れているが、経験年数が少ない職員にとっては対応への不安が大きいようである。
（6）　地域との連携に関して	B	・園外保育等で出会った地域の方に進んで挨拶を交わしたり、地域の人のご厚意を受け、田植え・稲刈り体験を実施し、感謝の思いをもって取り組んだりすることができた。 ・職員一同、地域に根差した園であることの共通理解を図り、進んで地域の方にかかわったり、感謝の思いをもって体験を園児に楽しませたりして、心身の豊かな発達を促すことができている。
（7）　危機管理能力について	B	・園児の安全と安心を第一に保育室等の避難経路や災害発生時の対応を考え環境を整えている。 ・緊急事態が発生した場合に、咄嗟の判断が求められる。職員が連携のもと、臨機応変に対応できるよう努めていきたい。 ・ヒヤリハットを実施するようになり、教諭の安全面への意識が高まり、怪我の発生やかみつき等が減少した。 ・嘔吐処理の方法や簡単な怪我の対応の仕方をどの職員も身に着けることができ、他の職員と連携しながら対処できるようになってきている ・「れんらくアプリ」による登降園の確認をし、園児の未連絡者への対応を徹底し、園児の所在を明らかにしている。

2　総合的な評価結果

結果	理　　由
B	・認定こども園の教育・保育に関すること、教諭としての資質、教諭同士のティーム力は、職員の意識が高く、対応力が身に付いていて、自己発揮できているものと評価できる。今後も、連携を大切により園児の成長を促すための取組に力を入れていく。 ・保護者との連携、地域との連携については、保護者の価値観の多様化による対応の難しさやコロナ対応による地域との連携が減少していることが要因と受け止める。しかし、保護者対応では、保護者に寄り添った連携に努めることができている。 ・保育の実践力に関して・危機管理能力については、研修の時間の確保の工夫をし、さらに向上させていけるよう努力をしていきたい。

3　今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取組み
・保護者との連携について	・経験年数の少ない職員にとっては、保護者対応に不安を抱きやすいので、先輩職員がアドバイスをしたり、言葉の選び方など一緒に考えたりして、苦手意識を取り除いていくようにする。
・危機管理能力について	・職員一人ひとりの危機管理能力を高めるため、いろいろな場や内容を想定しての訓練を予告なしで実施し、臨機応変に行動できる対応力をつけていく。
・保育の実践力について	・一人ひとりの主体性を大切にしたクラス運営のあり方を、担任自身が見出していけるよう、さらに園内研修の充実に努めていく。

浜松学院大学付属愛野こども園　園　長　　大野　正惠

4　関係者評価委員の意見

A 委員
・(1)「幼保連携認定こども園の保育・教育に関して」の教育・保育目標である「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」の遊べる子については、遊び学べる子と理解している。
・「総合的な評価結果」については、A に近づいた B と思っている。

B 委員
・園の様子等については、コロナ禍という通常とは異なる事情の中でご苦労されたことが良く分かる。先生方が子どものために一生懸命保育を工夫したり安全に心を配ったりしていたことが伺えた。

・愛野こども園のアンケートを見ると、園に対する保護者の信頼や満足度が高いことが分かる。これは、年々評価が上がっているように感じる。同時に保護者からの意見からも好意的であることが伺えた。
・アンケート結果の公表は、保護者に対する園の信頼につながっていき大変良いことと思う。また、保護者の意見と園のコメントを、すべての保護者と共有することは、園の方針や他の保護者の教育観や子ども感を学ぶ場にもなる。
・知りたいと感じたのは、各質問での「思わない」という少数の意見で、無関心や否定的な見方をする方はどこにも一定数いる。この少数の方が何を考えているのか興味関心がある。
・様々な事件や報道により、保育現場に対する見方も厳しくなっている。そういう状況の中で、先生方がこれだけ保護者の信頼を得ていることは大変すばらしいことと思う。しかし、現場の努力だけでは済まされないことは多く、保育士の配置基準や給料等、国レベルで考えていただきたいと思っている。
先生方自身の心身面を大事にしていただきたいと切に思う。

C 委員
・(1) 全体的には「教育・保育目標」また「重点目標」に基づき、コロナ禍という非常時の中、よりよい保育実践に努めていると評価できる。
・(2)「保育の実践力」に関しては、コロナ禍の中、リモート研修等により保育実践の向上に努めていることが伺える。特に、職員全員が提案保育を行い、職員間での意見交換から多面的なとらえ方を学ぶ取り組みが評価できると考える。
・(3)「教諭としての資質」に関しては、今日の保育のキーワードの一つである「幼児の主体性」を大切にした保育の在り方を考え保育実践を行い、職員が園の教育方針を共有できている点が評価できる。衛生面や身だしなみなど子どもの見本となる保育を心掛けていることが伺えた。
・(4)「職員同士のティーム力について」に関しては、職員間の連携を深め協力体制が築かれていることが評価できる。
・(5)「保護者との連携」に関しては、基本的な対応は適切に行われていると伺える。半面、業務評価表の記載から、経験年数が少ない職員にとっては対応への不安が大きいことが伺える。今後、さまざまなケースの対応について、経験年数が少ない職員を適切に支援できる体制を整えていくことが必要であると考える。
・(6)「地域との連携」に関しては、田植え、稲刈りなどへの参加など、地域に根差した保育活動を行っていることが伺える。
・(7)「危機管理能力」については、災害、保育内での危険等に対する対応が適切に取り組まれていることが伺える。特に静岡県は震災等のリスクが指摘されている地域でもあるため、今後さらなる対応に努めることが望まれる。また、昨今、県内の保育施設等においても、重大な安全面での事故等が発生している。そういったことが生じないための安全対策もさらに一層、取り組んでいくことが必要であると考える。

令和４年度　浜松学院大学付属愛野こども園学校関係者評価委員会委員名簿

NO	氏　　名	住　所	愛野こども園運営委員の要件	備　考
1	大　野　正　惠	掛川市	愛野こども園園長	
2	佐々木　実保子	浜松市	浜松学院大学講師	
3	坂　田　温　志	浜松市	浜松学院大学短期大学部准教授	
4	足　立　矩　彬	袋井市	愛野こども園保護者代表 （保護者会会長）	
5	吉　冨　昌　治	袋井市	愛野こども園保護者代表 （保護者会副会長）	
6	山　本　淳　司	袋井市	愛野地区コミュニティ代表	
7	吉　﨑　成　夫	袋井市	愛野地区コミュニティ代表	